



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



新規栽培者講習会で栽培方法を説明

JAたじまピーマン生産者大会
夏の但馬といえば「ピーマン」にしよう

ピーマン生産者大会での講演



中貝市長に受賞の報告をする松本さん

日本初のピーマンマイスターとして

生産技術の普及促進に奔走する元気人

たじまピーマンの栽培・普及に取り組み、但馬地域を関西一の夏秋ピーマン産地にまで押し上げた元気な男性を紹介します。

松本春雄さん(76歳)但東町奥藤

但東地域でたじまピーマンの生産に取り組み松本春雄さんが、平成23年度農事功績表彰において、県内では大正5年以來となる紫白綬有功章を受賞しました。松本さんは「農業一筋に頑張ってきました。この賞がもらえたのは皆さんのおかげです」と喜びを語ります。

苦勞もやりに

松本さんは、高校在学中に農業を営む父親が亡くなったため、高校を中退して就農。昭和45年、国の減反政策を機に減農薬の米作りに加え夏秋ピーマンの栽培を始めました。「ピーマンは連作できないし、病害虫に対する苦勞もあります。でも、それもやりにい一つ。自信が付きます」と松本さんは話します。

新しいひとと挑戦

手間やコストを減らすため、昭和56年にピーマン自動計量包装機を導入。選果場での共同選果による出荷と生産の分業化により労力が大幅に削減されました。病害虫対策にも取り組んだことで収穫が安定し、通常、栽培量は1人500本といわれる中、親子

2人で約2400本のピーマンを栽培し出荷しています。

また、専業農家として周年の就勞を可能にするため、米とピーマンに加え、山ウドの栽培に取り組み、農業経営の多角化を図りました。

さらに、平成18年には「日射制御型拍動自動灌水装置」の現地実証農家として初参画。動力源は太陽電池を搭載したパネルで、晴天続きで植物に水が必要なときは、発電量が増え水を十分に与えることができます。「夏場の肥料や水やりが自動化でき、収穫量が1割アップ。まさに『人と環境に優しい装置』です」と松本さんは笑います。

たじまピーマンの特徴

但馬地域は昼夜の気温差が大きいことから、ピーマン栽培に適しています。肉厚で色が濃く、光沢があり日持ちする高品質のピーマンが生産され、生産者は但東町内から但馬全体へと順調に増加し、ピーマンは地域を代表する特産物となりました。

栽培技術の普及促進に尽力

松本さんは、昭和59年から但東町野菜生産組合ピーマン



▲ダンスやカラオケが趣味の松本さん

部会長を務めていましたが、平成12年からは、但馬地域4JAの合併に伴いJAたじまピーマン協議会会長に就任。栽培技術の向上と新規栽培者の指導・育成、小・中学校の食育活動などを行っています。また、平成18年には、日本特産物協会から但馬で初めて「地域特産物マイスター(注)」に認定されました。さらに「ピーマンマイスター」としての認定は日本で初めてです。「何でも楽しむことが大事。高齢の生産者が多いですが、ピーマン栽培が生きがいづくりになっていると思いますよ」と松本さんは話します。

約12ヘクタールで約200人の生産者が手掛けたピーマンを年間約650トン出荷。但馬地域は関西一のピーマン産地となっています。「無理をせず、今後も安全・安心なピーマンを作り続けます」と松本さんは力を込めました。

※注 地域特産物の栽培、加工等の分野で多年の経験と卓越した技術・能力を有し、産地育成の指導者ともなる人材を認定するもの

広報マンがやってきた!

幼稚園編

25

神美幼稚園

(豊岡)

〈園児9人〉



神美幼稚園は、三開山みひらやまの麓に位置し、近くにはお菓子の神様で知られる中嶋神社があります。

1月13日、神美小学校と合同でどんど大会が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

運動遊びをしよう

どんど大会が始まるまでかるた、デイズニール体操、縄跳びなどをして過ごします。

縄跳びを終えると、園児は順番に友達の前で友達のすくいところを伝え認め合います。根っこづくりの一環の



「思いを伝え合う力」を実践しています。

どんど大会

午前10時30分。園児たちはしめ飾りやそれぞれが今年の「めあて」を書いた紙を持って、まだ雪が残る小学校グラウンドに向かいます。小学生も続々とグラウンドに集まってきました。



「友達に優しくする」「字がうまくなる」「お手伝いを頑張る」などの目標を、先生と児童会役員が組み立てた5メートル以上の竹のやぐらの中に入れます。いよいよ点火。火がつき燃えた煙が空に上がっていくの

を見た園児たちは「わあ、すごい」「神様はいばい」など歓声を上げていました。

時折火の中で「パーン!」「パチッ!」という竹が燃える音がするとみんな驚いていました。

先生の陰に隠れる園児も。最後に火の周りを1列になって歩き、火

や煙にあたって今年

の「めあて」がかなうことを願いました。

「煙が空へ向かっていってうれしかった」「火が熱かった」などの園児たちの感想に対して、先生は「燃

えたものが空まで上がって

いって神様まで届くとい

ね」とやさしく語りかけていま

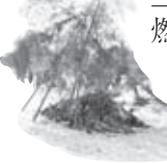
した。

した。

した。

した。

した。



笑顔の輪

形ができる楽しみをみんな

日吉倶楽部(日高)

日高町日吉区の会館「立雲館」では、毎月第3月曜日の午後、日吉区老人会「日吉倶楽部」の手芸愛好家メンバーが集まり、手編みや裁縫などを楽しんでいます。メンバーは9人。無理

をせず、集まるときに集まり、手芸をしながら話に花を咲かせています。

平成16年、日高町いきいきサロンに手芸部ができ、そこで手芸を教わってきたメンバーが、日吉区でも試みようと思ったこ

とからこの会が始まりました。代表の隅田實喜枝みきえさんは「編み物をしながらのおしゃべりは、お互いの人生勉強にもなり、楽しいですよ。ストレス解消にもなります」と笑顔で話します。



ほとんどのメンバーの自宅が浸水。「全国から温かい支援を受けました。今着ているセーターもその時に頂いたものです」と話す隅田さん。メンバーの田中多賀子たかこさんの発案で、

東日本大震災被災地へ防寒具などを手作りして送ることを決めました。10月から1カ月以上かけて、手編みのマフラーや靴下、帽子など、ダンボール6箱分を仕上げ、宮城県岩沼市の仮設住宅24戸へ送りま

した。「これで少しでも寒さをしのいでもらえたら」とメンバーは思いを託します。「一針一針心を込めて編んでいます。人に喜んでもらえるのが一番うれしいです」。手芸を始めてみたい方はお越しください。《問合せ》隅田さん。☎42-1776

平成16年の台風23号では、